
空の意味

龍乃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空の意味

【Nコード】

N60560

【作者名】

龍乃

【あらすじ】

藍色の疾風外伝(?) 第二弾になります。

本当なら本編で書くべき「理由」だったんですが、恐らく伏線回収が本編だけでは間に合わないので……。 (汗)
幼い姉弟の日常の一幕、楽しんでいただければ幸いです。

明に教えたのは私だった。私達は誰かの身代わりとして造られた
ということ、その誰かは空が大好きで、ずっと空を見上げていて…
…事故で亡くなったことを。

だからぼくもねえさんにもいさんたちも、空にかんけいある名前
なんだね、と明は明るく言っていたが、今考えたら随分と酷いこと
を突きつけたものだと思う。まだあかねが小学校に入る前、明が幼
稚園に通っていた頃のはずだから、自分の言っていることが相手に
どんな影響を与えるかちゃんと分かっていたのだから。

「…………ごめん、明」

「…………何が？」

冷静ながら怪訝な様子で聞き返してきた赤い瞳に、あかねは耐え
られず目を伏せた。

「私がお前に教えるのは辛いことばかりだな、とと思ってさ…………。知
らない方が良いことだってあるのに、私はお前に何でも話すから」

「僕はそっちの方が嬉しいけどな」

明はそう言っ、あかねの顔を覗き込んできた。

「姉さん、また何か変なこと考えてる？」

「…………また、っってお前な…………」

「またでしょう。しかも、わざわざ苦手な記憶辿りまでして」

「こつもはつきり言われてしまっではあかねも苦笑するより他はな
かった。」

「…………苦手なのは認めるが、それとこれとは違うだろう」

「違うよ。だから僕のことと姉さんが悩む必要なんてない。僕にと
って姉さんからもらった知識はそこらでもらう知識よりもずつと面
白いし、姉さん説明上手だからね」

「…………上手くはないよ、私は。お前の理解が早いだだけだ」

「それはまあ、姉さんのいも…………弟だから」

「……ぷっ」

笑ってはいけないと自制するも遅く、あかねは小さく吹き出した。顔を上げればほんのりと頬を染め唇を尖らせる、年相応に感情を見せる明の姿がある。

「少し言い間違っただけなのに、笑うなんて酷いよ」

「うん、いや……ははっ、悪い、なんか止まんない……」

あははは、と笑い続けるあかねに、明も諦めたのか微笑を浮かべた。

「……うん。姉さん、笑ってた方が似合うよ。真剣な顔も格好いいけど、悩んでる顔は……僕は見たくない」

「明……そうだよな。私は“暁”だもんな」

「だから僕と対になってるんでしょ？僕は“夜”だから」

「私は夜空も好きだけどね」

言いながら、あかねは木から飛び降りてまだ上にいる明を見上げた。

「お前が“夜”で良かったよ、明。お前じゃなかったらきつと私をここまで分かってくれなかったはずだ」

「……お互いだね」

いつも通りの笑みをあかねを向け、明は静かにあかねのそばに着地する。危なそうなら手を貸そうと思っていたが杞憂だったらしい。その成長は嬉しくもあるが寂しくもある。

寿命が、近付いている証でもあるから。

「……さ、帰ろうか、明」

「……帰りたくないけどね」

急に硬くなった明の小さな声にあかねは軽く明の頭を小突きながら、ニヤリと笑った。

「寿命まで大人しくする気はないよ、私は。国の許可をどうにかとって、お前と一緒にあの家を出る。監視が必要だと言われるかもしれないが、そんなもの病院に送っておけばいいしな」

「……暴力はよくないよ」

そう言いつつも、明も微かに笑みを浮かべながら、歩き出したあかねの横に並ぶ。

「さて、今日は何が良いかな……確かナスがあったし、揚げびたしでも作ろうか。好きだったろ？」

「……よく覚えてるね」

「そりゃ、私はお前のに……っ姉さん、だからな！」

「噛んだね」

冷静だが少しだけ面白そうに言った明に、あかねは照れ笑いを見せる。

さっきまでの罪悪感は、自然とどこかへと行っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6056o/>

空の意味

2010年10月31日03時49分発行